V３

令和　４年度　　園評価書

園番号　29　　園名　丸子こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
笑顔で明るい元気な子	心弾むような「おもしろいこと」をみつけよう　やってみよう	子どもが夢中になり、心が動く中で、様々な物・ことへの興味や関心がひろがる環境が準備されている	子ども達が興味をもっていることを捉え、使いやすいように動かしやすいように環境を準備することができた。昨年度から子ども達が自ら関わっていけるように環境を構成していこうと取り組んできたことが、今年度になり、職員全体で意識して取り組めるようになってきている	A	A	・園に固定されている遊具ではなく、自分で動かして遊べる遊具が増えている。 ・園庭に物が増え、子ども達に合わせて工夫がされている ・子どもたちが選んで遊んでいた。 ・以前なら、子どもから声をかけてきたが、今回は訪問した自分たちに気を向ける暇がないほど、夢中になって遊んでいる姿が印象的だった。 ・学年ごとで園庭を使用したり、異年齢が交わる機会がない様子の園も多いと感じているが、いろいろな学年の子たちが一緒に遊んでいるのは、お互いに刺激もあっていいと思う	・保育者間で、もっと子どものことや環境のことを話し合ったり、伝え合ったりしながら共有できる時間をつくりたい ・保育者もまずやってみる、用意してみる、そこのタイミングをもっと早くして、子どもの思いと違った時には、直ぐに変化させられるように子どもの遊びの姿を捉えて、次につながる準備をしていく ・ドキュメンテーションを子どもにも発信し、子ども同士が共感しあったり認め合える関係をつくっていきたい ・子どもを真ん中にして、全職員で保育をしているという意識をもつためにも、全職員が学び、意見・提案ができる話し合いの工夫を考えたい
		子どもが自分の思いや考えを安心して表現できるよう、子どもの目線になって共感したり、一緒に楽しんだりしている	子どもと一緒にやってみたり考えたりしながら子ども達が楽しんでいることに共感していくことができた。保育者が一方的に指示や意見を言うのではなく、子どもがどうしたいか思いを引き出す声かけや子ども同士で話し合う場面をつくるなど、子どもの思いを大切に見届ける姿勢になってきている	A	A		
		子どもが何を気づき、何を楽しんでいるのか、保育を振り返り、日々の保育にいかしている。	子どもの学びやあそびの価値付けをする大切さを研修や公開保育で学び、子どもが何を楽しみ気づきは何か探ることを意識できるようになってきている。日頃から職員同士で声をかけ合い、子どもの姿やあそびを共有し、今日の保育が明日の保育につながるような日誌やボードを具体的に記入し、保育を振り返っている	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの育ちを捉えながら学年目標に向けて保育を行っている	年齢ごとの発達段階を踏まえてクラス毎目標に向かって今何ができるのか考えて、月案、週案などを立てている。公開保育の中でも他学年の育ちについて考えたり、育ちのつながりに意識がもてるようになり、それぞれの学年の保育を振り返ることができた	A	A	○安全管理・指導《不審者訓練》年間で6回も行われているのは凄い。不審者訓練は大事たが、不審者を立てない、子どもを怖がらせないという訓練で行いたい。学校では、子どもが大声をだして逃げる、とか子どもがやれること、対応の仕方を訓練するという方法をとっている。火事・地震・洪水（浸水）あらゆる危険を想定して訓練を重ねたい ・訓練が行われていることが、どれくらい保護者に発信されているのか。保護者が知らないのでは？伝わるように発信していきたい ・丸子交番や南警察署に問い合わせると不審者の対応の仕方や講座の相談ができるので活用してみては ○教育・保育環境の充実《ヒヤリハット》学校でも情報の共有が難しい。この時のヒヤリハットが周知されていたら…ということもあったのは事実。記入して、回覧して周知して確認していくということを繰り返していくことが大事。今日のあそびの場面でも、先生たちには日常の子どもの動きも、自分達から見たらドキッとさせられたり、先生たちが付いていないところで危険な場面もあった。ヒヤリハットもどこまで…とはなるが、意識を高めたい ○特別支援教育・保育…小学校でもサポートファイルを活用している。毎年、引き継げるようにやっていきたい。園とも引き継げるようにし、小学校で０からのスタートにならないようにしていきたい ○近隣の学校との連携《近隣園との交流》私立さんが多い地域なので、私立さんも巻き込んでは？おしゃべりサロンなどに出向くと、他園のことを尋ねられることも多い。年度の初めに、長田子育て協議会で集まる機会があるので、そこから園の交流につなげてはどうか。園同士が交流していくことが小学校につながっていくのではないか《小学校との連携》今年度２回、近隣園（4か園）の先生を小学校に招いての情報交換会を行った。これは来年度も行っていく。校庭や図書館などももっと幼少の接続に活用していきたいと思っている。小中の交流・接続と同じように幼少の交流・接続も大事だと思っている ○保護者アンケート…内容が難しいと感じた。園がみえていないと答えられない質問も多い、反面、園がこういう思いで取り組んでいる、こういうことを大事にしているということを伝えられる機会にもなるのかなとも思った	○安全管理・指導…訓練を重ね、職員一人ひとりが意識を高くもち、反省を次につなげ、より確実で安全な避難ができるようにしていく。他人事と思わず、自ら関わっていく姿勢をもちたい。保護者にも、園だより・毎月のドキュメンテーションでその月の訓練の目的と訓練方法を発信していくようにする。子ども達にもなぜ、訓練が必要なのかを大事に発信しながら訓練を重ねていけるようにする ○組織運営…職員、一人ひとりが分掌への意識を高めていきたい。また、行事や分掌を他人事と思わず自ら関心をもっていくことを意識する。また、分掌も取り組みを可視化して貼り出したりして、全体への発信をもっと強めていく ○教育・保育環境整備…ヒヤリハットの提出につながるような分掌からの発信の工夫を早急に検討したい。また、全体で周知できるようにその月に提出されたヒヤリハットを回覧したり、貼り出して、まずは全体で周知するようにする。そこから、毎月の会議で傾向と対策を挙げながら園内研修を行っていくようにする ○特別支援教育・保育…年間で支援児担当者会議の計画を立て、引き継ぎを丁寧に行い、保護者に子どもの様子を聞き取りながら、サポートプランを立てて保育を進めていく。また、子どもの様子に合わせて、グループ活動も計画を立てていく ○近隣の学校との連携…少しずつ、取り組み始めたことに対して、職員一人ひとりが意識をもって関心を寄せることが大事。自分には、自分たちたちのクラスには何ができるのだろう…と、考えていく姿勢をもちたい。また、長田西小学校との連絡会や他園との交流（公開保育）に多くの職員が参加できる体制を整えたい。また、公立同士だけでなく、近隣の私立の園との交流を評議員さんから提案していただいたので、来年度は公開保育の案内を配布してみたいと考えている ○地域との連携…保育者が地域の特産や特徴を理解する為に、学校評議員さんから情報を得たり、地域の行事に参加したりする機会をつくり、地域と連携を図っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園生活の中で子どもが安心して過ごせるよう配慮し生活の流れをつくっている	あそびの様子で、子ども達と相談しながら活動を組み立てていくことを大切にしていくことで、子ども達が考え、自ら決めながら生活する姿が見られるようになってきている。また、大好きな物がそこにある、あそんだ続きがそこにあるという環境づくりを意識したことで、子どもが安心して過ごせる姿につながった	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	興味や関心をもつものを見つけ「やってみよう」「もっと」と思えるような環境構成を考え、保育している	子どもが何を楽しんでいるのか捉えることや、それを環境に活かすことや遊び出しの環境の大切さを感じながら環境構成に取り組めた。また、園庭のあそびと室内環境のつながりにも意識をもてるようになってきている。子ども達もそれぞれがやりたい遊びへと向かっていったり、遊びが続いている	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な場面を想定した訓練を行う中で、状況に応じた行動や連携がとれるようになる	場面を想定した訓練の中で職員同士で振り返り、反省を共有し、会議で自分の意見や気づきを伝え合うことができている。また子ども自身も命を守る大切さを感じながら訓練に参加している。不審者対応への意識の低さを感じる	B	B		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に考慮しながら、年齢に合った基本的生活習慣が身につくように援助する	毎日の着替えを通して子ども達が自信をもって自分のことをやっている。職員間でひとりひとりの子の育ちを共有する機会となり、より丁寧な援助、関わりができるようになっている	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や個性を十分に把握・理解し、適切な支援を検討し実践につなげる	支援が必要な子にはサポートプランを作成し保護者と面談し、園と家庭とで協力して支援体制がつくられている。支援が必要な子だけでなく、ケース討議をしたり、その後の様子を報告したりと育ちや保育の共有ができたが、更に支援児担当者会議の充実を図っていきたい	A	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各自が責任をもって分掌に取り組み全職員へ書面などを使って発信する	分掌が機能し、それぞれが責任をもって取り組むことができているが、保育と分掌が共に取り組んでいく体制を整えたい。また、リーダーだけでなく会計年度の職員ももっと連携して分担してすすめていきたい	B	B		
6 研　修	(1)研修体制の充実	日々の手立てを行うなかで子どもの内面の理解に努め、全職員で学びを共有する	公開保育、園内研修を通して子どもの思い、姿を捉えることの大切さ、捉えようとする意識をもって保育する姿になってきている。子どもがやっていることだけでなく、内面を理解しようという視点がもてるようになっている。年間を通して学びが積み重なっていく実感がもてた	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	ヒヤリハットを検証したり、安全点検を行ったりしながら、安全な園庭・室内環境をつくる	ケガが起きた時には会議や打ち合わせで検証を行い、皆で検討することで安全への意識を高めていくことはできたが、ヒヤリハットの集計率が低かったり、どんなヒヤリハットがあったのか全体での共有ができていない	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ボードで各学年の遊びの様子や学びの姿をドキュメンテーションで発信し、保護者に園を理解してもらうように努める	クラスだよりやボードなど写真付きで発信し、子どもの姿を伝えることができた。１才児クラス前のテラスの壁に全クラスのおたよりや行事のドキュメンテーションを掲示することで、他学年の様子も発信することができている。そのことで家庭からあそびに必要な廃材や素材を協力してもらう機会も多くなっている	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育・公開授業・研修を通して小学校や近隣園との連携を深める	公開保育を通して近隣園との交流をとることができ、お互いに学び合えた。また小学校の先生にも来てもらえ、園の生活、あそびを見てもらえた。来年度はもっと子ども同士、また職員間の連携がとれる交流がとれるようにしていきたい	B	B		
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩や園外保育などで地域の方と挨拶を交わしたり、会話をしたりしながら地域への親しみを深める	散歩先や園庭で保育者が率先して地域の方に挨拶することで、子ども達も自ら声をかけたり挨拶する姿につながっている。保育を通して地域へ散歩に出かけることができたが、保育者自身がもっと地域を知ろうとする姿勢をもっていきたい	A	A		